



平成12年3月21日
日本原子力発電株式会社

東海第二発電所の調整運転開始について

当社、東海第二発電所（沸騰水型軽水炉、電気出力110万キロワット）は、平成11年4月4日から第17回定期検査を実施しておりましたが、所定の点検が終了したため、本日19時頃から定期検査の最終段階である調整運転を開始する予定です。
なお、定期検査を実施した主な設備は次のとおりです。

- (1) 原子炉本
- (2) 原子炉冷却系統設備
- (3) 計測制御系統設備
- (4) 燃料設備
- (5) 放射線管理設備
- (6) 廃棄設備
- (7) 原子炉格納施設
- (8) 蒸気タービン設備
- (9) 非常用予備発電装置

以上

1. 主要な工事

(1) 低圧タービン車室取替

・ 予防保全の観点から、第16回定期検査に引き続き、内部車室を耐食性材料を使用したものに取替えました。なお、今定期検査をもって車室取替はすべて終了しました。

(2) シュラウド予防保全対策

・ シュラウド（炉内構造物）の応力腐食割れ（SCC）に対して、念のため予防保全対策を実施しました。

(3) 中性子計測ハウジング予防保全対策

・ 中性子計測ハウジングの応力腐食割れ（SCC）に対して、予防保全対策を実施しました。
・ なお、当該工事期間中に1本の中性子計測ハウジングの取付け溶接部近傍にひびが確認されました。（平成11年6月11日発表済み）

(4) 補機冷却水系海水配管予防保全対策

・ 平成9年10月から実施しているカルバート（暗渠）化工事（耐食性材料への配管変更を含む）を実施しました。

2. 燃料取替

燃料集合体全数764体のうち、184体を取替えました。

3. 定期検査期間中に発見された不具合

次のとおり対策を講じました。

(1) 制御棒ハンドル部の微小なひびについて

（平成11年4月27日および平成11年6月16日発表済み）

【対策】 同一時期に取替えた制御棒25本を、念のため不純物残留の可能性のない制御棒に取替えました。

(2) 低圧炉心スプレイ系注入弁の弁棒破断について

（平成11年5月25日および平成11年6月16日発表済み）

【対策】 当該弁棒を取替えました。また弁駆動機構の作動試験手順を見直しました

(3) 中性子計測ハウジングのひびについて

（平成11年6月11日および平成11年11月29日発表済み）

【対策】

- ・ 当該ハウジング内面のひび開口部を閉塞するための止水用TIG溶接および予防保全のためのTIG溶接を実施するとともに、運転中に炉水が外部に漏えいしないようにするため当該ハウジングを原子炉圧力容器下部で拡管しました。
- ・ 当該ハウジングについては、運転中の監視強化を図るとともに、次回定期検査期間中に取替えます。

(4) 第5給水加熱器(C)の伝熱管破断について

(平成12年2月23日および平成12年3月9日発表済み)

【対策】 当該伝熱管(1本)を施栓しました。また渦流探傷検査結果の多重確認など検査管理体制の改善を図ることとしました。

4. 運転再開

- ・ 原子炉起動 平成12年3月18日22時
- ・ 調整運転開始 平成12年3月21日19時頃予定
- ・ 定常運転再開 平成12年4月中旬の予定

5. 次回定期検査

- ・ 平成13年春頃の予定